

製品デザインコース教員 専門性解説シート

● 氏名 / (NAME) / 役職

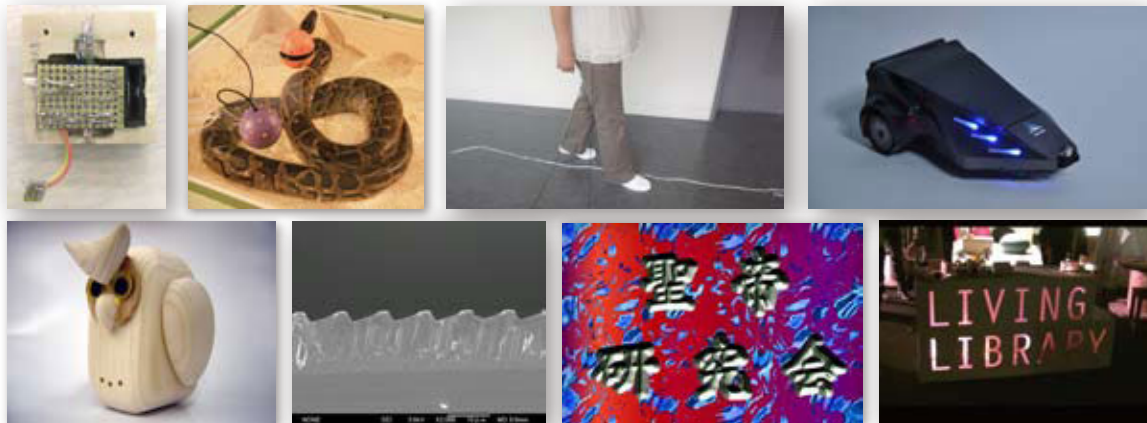
三谷 篤史 / Atsushi MITANI / 講師



● 職歴 / 学歴

2006 札幌市立大学 デザイン学部 講師
2005 立命館大学 理工学部 助手
2003 立命館大学 理工学研究科にて 博士(工学) 取得
2002 立命館大学 理工学研究科 研究員
1997 滋賀県立大学 工学部 機械工学科 助手
1998 立命館大学大学院 理工学研究科 博士後期課程 総合理工学専攻
1996 立命館大学大学院 理工学研究科 博士前期課程 情報システム学専攻 機械システムコース
1992 立命館大学 理工学部 機械工学科

● 専門性を示す代表的な作品 / 専門性を表現するイメージ(写真)



● 専門性を表すキーワード(5つ以内)

トライボロジー / マイクロパーツフィーダ / 制御工学 / メカトロニクス / ロボット工学

● これからの製品デザイン分野で重用視されると考えるキーワード(5つ以内)

ロボットデザイン(ユビキタス) / 表面の機能性 / インタラクション / センシング / 地域性

● 指導時に主にサポートできる部分(技術 / 造形 / 表現手法 / ソフトウェア / 思考 / 発想、等)

- ・ LED、センサ、モータ、ICなどを用いた、『実際に動く・機能するモデル』の制作指導
- ・ PIC等のマイコン、LED、電気電子回路などの技術指導
- ・ センサやモータを用いたインタラクション要素に関する技術的な指導
- ・ C言語、アセンブラをはじめとしたプログラミング言語と、それらを用いたシミュレーション技術の指導
- ・ 理工系の学問(力学など)を基礎とした、科学的な裏付けに関する知識の支援

● フリーコメント

メカトロニクス技術の発展は目を見張るものがあり、多くの製品がメカトロニクス化しています。しかしそれらの製品は、機能性を重視するあまり、デザインがおろそかになる傾向にあります。メカトロニクス機器がその機能を十全に発揮するためには、デザイン性からのアプローチが不可欠であると考えます。本ゼミでは、メカトロニクスの様々な技術や知識を学ぶことで、デザインの幅を広げつつ、メカトロニクスならではの特徴的なデザイン手法を模索し、メカトロニクス機器を創出することを目指します。